

「今週の1枚」



シラビソ （マツ科）

11月中旬の石鎚山頂は厳しい冬になっており、落葉樹の枝やシラビソの葉は樹氷におおわれていました。石鎚山と剣山に見られるシラビソ（シラベ）は本州のシラビソの変種として区別されシコクシラベとされることもあります。標高が高くなるにつれて気温が下がるため、四国でも1700～1800m以上ではブナやウラジロモミに代わってシラビソが優占した亜高山針葉樹林になります。日本では、亜寒帯針葉樹林という呼び方がありますが、世界の標準では北方林（boreal forest）です。寒帯では寒さのため森林が発達せずツンドラになるので、北方林が発達する地域を亜寒帯と呼ぶのはふさわしくありません。最近では、寒温帯（シラビソ帯）、冷温帯（ブナ帯）、暖温帯（シイ・カシ帯）と呼ぶようになっています。（埴田）

（ No.27 2001.12.3 掲載）